



議会では、いろいろな問題が取り上げられますが、今定例会で取り上げられた課題について、別府市の状況を併せて報告します。

## 通学路の安全点検

千葉県八街市で今年6月、下校途中の小学生の列にトラックが突っ込み、5人が死傷する事故がありました。トラック運転手の男性は、飲酒運転をしていたようです。

この事故は、今も危険な交通環境にある通学路を使っている子どもたちがいることを、私たちに改めて認識させるものでした。日頃から「道幅が狭く」、「歩道もなく」、「抜け道になりかなりの車がスピードを上げて走っている」ことが指摘されていたにも関わらず、犠牲者が出るまで有効な手立てをとらなかった責任は非常に重いと言わざるを得ません。

県内でも、子どもたちが日々通う通学路の中には、悪条件が重なった場所が数多くあります。道幅を広げ歩道を確保し、ガードレールなど安全対策を進めることが一番なのですが、予算や土地等の制約上、対策が困難な場所も少なくありません。

県教委では、県下の通学路の点検を行いました。計927箇所（うち別府市では149箇所）の危険・要注意箇所があったと報告されています。

## 県下初の「スムーズ横断歩道」

8月31日(火)、国が進める「スムーズ横断歩道」が別府市立山の手小学校の通学路の市道に整備されました。ここは近くにべっぷア



リーナや商業施設があり、歩行者が多く、通行量の多い道です。この「スムーズ横断歩道」は、最高速度時速30キロの区域規制に加え、横断歩道をカラー舗装し前後2mを緩やかに7cm盛り上げ車に徐行を促す「ゾーン30プラス」という交通安全の向上を図る取り組みの一つです。私も旧青山小学校時代に勤務し、現地で交通安全指導に立っていたので嬉しいです。

## 共同温泉の状況

今定例会で公衆浴場の混浴制限年齢が、これまでの9歳から6歳までに引き下げられました。

別府市民にとって共同温泉は、地域コミュニティの原点とも言えます。私が通っていたのは光町にある錦栄温泉。みんな顔なじみで、老いも若きも裸の付き合いの場でした。「原田ん家の落ち着いたのねえ坊主」は、熱い湯



私の思い出の錦栄温泉は市有区営温泉

に我慢できず水を入れて、おじさん方から怒られていました。

今、別府市の共同温泉がどうなっているのか、別府市役所の温泉課でお話を聞きました。

別府市には、**市営温泉が20施設**。元々は各地域の共同温泉だったものを土地・建物を市に寄付し、市の財産所有になったものを地域に貸し付けて、地域で運営している**市有区営温泉が69施設**。土地・建物等の財産を地域で

所有し、温泉の管理と運営も行っている**区有区営温泉が13施設**。一定の地域の方々がともに利用する目的で所有し運営している**組合営温泉は20ヶ所ほど**あるようですが、正確に



全国的にも有名な竹瓦温泉は市営温泉

は把握していないとのこと。公衆浴場法で規定する浴場数は日本一で、温泉組合（自治会）で管理運営し、1階は共同温泉、2階は自治会の集会場（町内公民館）の形態をとっているのが多いのも別府の共同温泉の特徴です。

安い料金で利用できる共同温泉は、別府の風情のひとつですが、その数は、年々減少しているようで、利用者の減少による経営難、さらに運営する方々の担い手不足が原因だそうです。

別府市では改修に対する複数の補助金制度を設けるとともに、共同温泉の運営自体に困っていることが多いという点については、地元自治会、中規模多機能自治協議会が独自で検討や取り組み進めているとのことでした。